



射水市名誉市民

しょうりき まつ たろう

正力 松太郎

Shoriki Matsutaro

生年月日～没年月日

明治18年4月11日 生
～ 昭和44年10月9日 没

決定年月日

昭和40年6月26日議決

主な経歴

読売新聞社経営、貴族院議員
日本・読売テレビ設立、日本野球連盟会長
原子力委員長、国家公安委員長
日本武道館会長

功績

正力松太郎は、射水郡枇杷首村(現射水市)に生まれた政治家・実業家です。

明治44年東京帝国大学(現東京大学)を卒業後、官界に入り、大正12年には警視庁警務部長に昇任しますが、同年12月の「虎の門事件」(※)で、警備の責任者であった松太郎は、事件の責任を取り38歳の若さで官界を去ります。

翌大正13年、前内務大臣後藤新平らの支援もあって、経営危機に陥っていた読売新聞の社長に就任、優れた経営手腕を発揮して、世界有数の大新聞の基礎を築きます。昭和9年、日本最初のプロ野球球団を創設、アメリカ大リーグとの日米野球試合を行うなどプロ野球の普及振興に尽くし、後に「日本プロ野球の父」と呼ばれました。昭和28年には日本最初の民放テレビ局を創設、赤字経営が危ぶまれる中、松太郎は街頭テレビでプロレス中継を放送、コマーシャル広告料でテレビ事業を運営するという斬新な経営モデルを考案、見事に民放テレビ事業を軌道に乗せました。

国政においては、昭和19年貴族院議員に勅選、昭和30年衆議院議員に初当選し、昭和31年には科学技術庁の初代長官に就任するなど、多くの功績を残しました。郷土に対しては、越中大門駅の設置や企業の誘致をはじめ、昭和37年に永久橋として実現した大門大橋の架橋にも尽力しました。

「利行は一法なり。あまねく自他を利するなり。」(自分のことのみならず他の人のために尽くすことが、いつか自分にも他人にも、そして全てに幸福をもたらすことになる。曹洞宗の開祖道元の言葉)松太郎の座右の銘のひとつとされています。

※ 虎の門事件 大正12年12月、摂政として第48回帝国議会の開院式に出席するため自動車で貴族院へ向かっていた皇太子(後の昭和天皇)が、虎の門外において群衆の中にいた青年から狙撃された事件。

※ 関連施設 正力・小林記念館 正力松太郎と小林與三次の功績を後世に伝えるため、平成14年開館。入場無料。敷地内に松太郎の銅像が建つ。

(『大門町史 続巻』(大門町)、『富山大百科事典』(北日本新聞社)から引用)